

第5回新渡戸記念国際シンポジウム、東京、2007年8月2日～3日

## 「ヨーロッパ言語とアジア圏 — 言語政策の過去・現在・未来」

決議文

### 民主主義、発展、アイデンティティ：アジアにおける言語政策の課題

2007年8月2日から3日にかけて、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、および北米から、言語政策と言語教育の専門家らが東京につどい、過去や現在のアジア諸国におけるヨーロッパ言語の役割と影響について討議した。

新渡戸記念国際シンポジウムは、1996年の初回開催以来、国際的かつ多様な文脈における言語政策に関して、開かれた議論を推奨しつづけている。この路線を継承した第5回新渡戸シンポジウムの閉会にあたり、アジアの現在と将来の発展に対する言語問題のかかわりに関心を寄せる研究者、一般知識人、オピニオンリーダー、および政策決定者に向けて、以下の所見と提言を述べる。これらの討議結果は、グローバル化した世界の言語問題を理解するうえでも意味を持つであろう。

アジアの多様な状況に共通しているのは、ヨーロッパ起源の言語（とりわけ近年では英語）がアジア諸国の多言語的モザイクに組み込まれてきた事実である。こうした言語のなかには、独自に発展をとげた地域変種がアジアの文化的伝統の一部をなすにいたったばあいもありながら、一方では、その言語のヨーロッパ的標準形が依然として広く教えられ使われている。そこで、アジアの近代化に対する標準ヨーロッパ語の寄与を認めつつ、大小のアジア言語が軽視されることへの懸念との間にどう折り合いをつけるのが、共通の課題となってくる。支配的地位にあるヨーロッパ言語に注目と資源が集中し、民主的管理やアジア言語とその話者の利益保護がないがしろにされているのである。

また、個人、文化的集団、および国家のレベルで、持てる者と持たざる者の格差拡大にヨーロッパ言語が少なからず関係していることは明らかである。よって、社会的連帯、異文化理解、経済的豊かさや持続可能性などの広く認められた社会的価値や目的を強化するような方法で、ヨーロッパ言語の学習と使用を管理（運用）することも、課題となってくる。

このような重大な問題に対応するため、アジア諸国におけるさまざまなレベルのさまざまな集団に対し、以下のテーマとプログラムに取り組むよう提言する。

## 1. 対話

アジア各国には、多言語状況の管理に関する共通の関心事と課題が多数存在する。各国の言語政策と調和する地球規模の言語政策の実現をめざし、シンポジウムなどの手段を通して対話を続ける必要がある。

## 2. 多元的アイデンティティ

民族的文化的アイデンティティの多様性と地球的地域的アイデンティティとを両立させるような政治的枠組みを作りあげることが必要である。この点は、一国内においても国際間においてもアジアが本質的に多言語多文化的であるという認識を前提とする。

## 3. 経済的価値と文化的価値

学校教育や経済市場において、言語の経済的価値と文化的価値のつりあいをとることにより、経済的上昇か文化的きずなかという（誤った）二分法を解消しなければならない。そのためには、地域言語の経済的社会的地位を高める措置を講ずる必要がある。

## 4. 資源の配分

財政的、技術的、人的な資源へのアクセスを、諸言語にとって公正なものとする必要がある。英語などの大言語のみに資源を集中させることは、アジア圏の政治的文化的発展に悪影響を与えるであろう。

## 5. アジア言語の学習

互いの言語によるコミュニケーションには、双方にとっての外国語を介したコミュニケーションにはない良さがある。この観点から、学校教育システムの内外に、アジアの人々がアジア言語を学ぶ体制を整える必要がある。

## 6. 効果的な言語教育

アジア言語とヨーロッパ言語の教育に関して、教育効率と魅力の向上を目的とする体系的研究が望まれる。こうした研究では、学習者が言語学習に投資した時間と労力に対しどのような見返りを得られるのかに焦点を置くべきである。

## 7. 既存の多言語モデル

アジア諸国の多言語多文化性にみられる活力、存続可能性、公正さ、および紛争の管理について、既存のやり方を分析すれば、アジア圏の言語政策と言語計画に役立つ知見を得ることができるであろう。

## 8. 言語の発展

国家語と言語政策の発展とともに世界経済や世界文化への参加が進むのと同様に、少数言語の発展と教育が共通の国家目標に資するようなモデルを作り出すことが重要である。

## 9. エスペラント

エスペラント運動は、国家間および共同体間のコミュニケーションのため、競争とあつれきではなく協働と調和を推進する言語を作りあげた。この経験は、アジアのさまざまな言語共同体にとっておおいに参考になる。アジアの多言語的モザイクにおいて、エスペラントという言語自体が重要な役割を担う可能性もある。

## 10. 能力育成

以上のテーマとプログラムに関する行動を開始し推進するため、アジアの国々と諸機関は、言語の専門家と政策立案者の交流、言語政策と教育の情報交換、そして言語問題に関する研究成果の発表を推奨することが望まれる。